

当報告の内容は、報告者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

タイトル：「『アルタイ型』言語に関する類型的研究」

(2017年度第1回(通算第7回)研究会)

Title: Typological Study on “Altaic-type” Languages (The 7th meeting)

日時：2017年6月11日(日)

Date/Time: 11th Jun. 2017

場所：AA 研マルチメディア会議室 (304)

Venue: Room 304 (Multimedia Conference Room), ILCAA

Language: Japanese

1. 鍛冶広真 (AA 研共同研究員, 東京大学)

「エウエン語の「形動詞」

(要旨) エウエン語には 6 種類の形動詞, 現在 (-rI~-dI~tI~l), 過去 (-čA), 直前完了 (-mAt), 前過去完了 (-tI A), 義務 (-nnA), 未来 (-jIŋA~-jŋA~-ŋŋa~-čIŋA) がある (Novikova:1980, 風間伸次郎:2003). 本発表では特に -čA の用法についての先行研究の記述を概観し, Kim (2011) に見られる用例を検討した.

形動詞には連体修飾用法 (1), 名詞的用法 (2), 述語的用法 (3) の用法があるとされるが, 風間 (2010) では実際のテキストの用例 49 例の中に名詞的用法と述語的用法しか現れていないことを指摘している. Kim (2011) からは 9 例の用例が見つかることができたが, このテキストにも連体修飾用法はなく, 名詞的用法が 7 例, 述語的用法が 2 例であった. 名詞的用法として「形動詞+格」の形で時間節, 場所節, 補文節, 主要部内在型関係節を表す例があるのはナーナイ語 (風間 2017) と同様であり, その他に「形動詞+場所格」で時間節とも場所説とも認めがたい逆接と見られるような用例があることがわかった.

2. 黒島規史 (東京外国語大学大学院/日本学術振興会)

「朝鮮語における連用節内のテンスとモダリティ」

(要旨) 本発表では, 現代朝鮮語の連用節内の述語がテンス, モダリティを持つ例を考察し, その統語, 意味的な特徴を従属節の従属度との関係から明らかにした.

対象としたのは条件節 -myen 「~たら, ~れば」, 理由節 -nikka 「~から」, 反意節 -nuntey/ntey の三つである. 連用節内の述語がテンス接辞 -(a/e)ss- を持つ場合と持たない場合について, そのテンスが絶対テンス (発話時基準) か相対テンス (主節時基準)

のどちらで解釈されるかを検討した。その結果、次のようなことが明らかになった。まだ検討が必要ではあるが、従属節の独立度が高いほど、相対テンスと解釈されやすいということが言える。

	テンス解釈
-myen	絶対テンス：-myen が過去接辞を持つとき 相対テンス：-myen が過去接辞を持たないとき
-nikka	絶対テンス：主節が非過去するとき（主節が過去、状態性述語の場合） 相対テンス（中和）：主節が過去するとき
-nuntey/ntey	絶対テンス：-nuntey/ntey が時を表す場合以外 相対テンス：-nuntey/ntey が時を表す場合

また、連用節内の述語が推量を表す迂言的なモダリティ -l kes(-i-)（非現実連体形 -l + 依存名詞 kes 「こと」+ コピュラ）を持つ場合については、1) モダリティの意味、2) モダリティの認識主体、3) 主節のモダリティ、4) 三つの領域 (Sweetser1990) に着目して考察した。その結果は以下のとおりである。この場合も、従属節の従属度が高いほど、モダリティの意味が制限され、モダリティの認識主体も主節のモダリティに影響を受けやすいということが言える。

	Mod.の意味	Mod.の認識主体	主節の Mod.	三つの領域
-myen	意志	聞き手	命令, 当為, 疑問 etc.	言語行為領域
-nikka	意志, 推量	話し手	命令 etc.	認識, 言語行為領域
-nuntey/ntey	意志, 推量	ほぼ話し手	制限なし	言語行為領域

報告者の報告後、成果公開および次回の報告内容についてメンバー内で相談した。

文責：山越康裕